

国際メディカル専門学校

学校関係者評価報告書 (令和元年度)

令和2年4月28日

学校関係者評価委員会議事録

第8回 学校関係者評価委員会 議事録

ICM 国際メディカル専門学校
議事録担当 佐藤秀幸

会議名 ICM 国際メディカル専門学校 第8回学校関係者評価委員会
開催期日 令和2年4月21日(月) 18:00~19:30
場所 国際メディカル専門学校 オンライン会議
出席委員 南部郷厚生病院 事務長 野水宏一
医療法人愛広会 人事部長 田村泰生
社会福祉法人愛宕福祉会 人事部長 仲野隆一
ICM 元看護学科副校長 顧問 池井淳子(欠席)
校友会会長(新潟市民病院) 佐藤桜子(欠席)

学校側参加者 国際メディカル専門学校 学校長 白倉政典
看護学科副校長 内藤綾子
教務部長 佐藤秀幸
事務局長 岡部 亮

*コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度の学校関係者評価委員会は3月から4月21日(火)に延期となり、尚且つ感染防止のため、オンライン会議形式にて実施した。

I、令和元年度 各種運営目標の達成状況【報告】

1、学校長 白倉より、2019年度の総括として各種目標に対しての実績数値が各委員に報告がなされた。

2、2019年度国試・主要認定検定試験実績、学生募集状況、学生の退学防止、就職指導状況、その他コンプライアンス等の学校運営状況と学校自己評価報告書について

学校長 白倉より説明がなされた。

II、学校関係者評価委員からのご意見拝聴(自己評価項目ごと)

別紙「自己評価報告書」の要点として、「課題と改善策」を事前確認いただき、項目ごとに委員のご意見を頂戴した。

目次（評価項目一覧）

1. 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

2. 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

4. 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善にかつようされているか

5. 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

6. 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

7. 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

8. 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

9. 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

10. 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

1. 教育理念・目標

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
社会のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが生徒・学生・保護者に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

(2) 現状

- 当校では以下の教育理念、学校の使命、人間力育成のための教育指針を掲げ、人材育成を行っている。また、これらの教育理念、学校の使命、教育指針のもと、各学科において学科教育目標が定められている。

【教育理念】

高い専門能力を追求しながらも、単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、想像力に満ちた人材育成の場であること。

【学校の使命】

- 1、よりよい医療人・社会人の育成輩出を通じて地域社会国家国際社会の発展に寄与する。
- 2、学生の夢・希望をかなえる場を提供し、誠心誠意サポートする。

【人間力育成のための教育指針】

実践行動学：目標を明確にモチベーションを維持し、前向きに努力する。

礼儀・礼節：挨拶、状況に応じた言葉遣いや行動をし、感謝の心を持つ。

清潔：身だしなみを整え、環境を整備し、自分の心を磨く。

地域貢献：地域行事に参加することで、地域に愛着を持つ。

国際理解：海外研修や留学生との交流を通じて異文化理解と受容の精神を持つ。

奉仕：ボランティア活動を通して、他者を思いやる謙虚な気持ち、公共心を持つ。

集団行動：他者との協調、集団の中で自らの果たす役割、リーダーシップを学ぶ。

- 当校の教育の特色として以下の点が挙げられる
 - ・ 厚生労働省指定養成施設ほか外部機関から指定・認可を受けた学科が多く、カリキュラム、教員、施設、実習施設等法令の要件に則り整備されている。
 - ・ 職業力を高めるための、病院等医療機関、社会福祉施設等と連携した職業実践型実習が豊富に取り入れられている。
 - ・ 国家資格、検定資格指導にあつては各学科とも高い合格実績を支える指導の仕組みを備え、学生個々へのきめ細かい対応を行っている。
 - ・ 豊かな人間性を養うために地域行事への参加や、ボランティア活動などを実施している。

- ・ 文部科学省の職業実践専門課程の認定を受け、大学、病院、各種業界団体等の有識者と議論を重ね、学生指導・教育課程の編成について検討をしている。

2020年3月時点で職業実践専門課程の認定を受けている学科は、医療事務総合学科、臨床工学技士科、看護学科、鍼灸学科（昼）、鍼灸学科（夜）、診療情報管理士学科の6学科で全学科が認定されている。2017年度医療事務総合学科、2018年度臨床工学技士科、看護学科、2019年度鍼灸学科でフォローアップも終了し、適正に運営されている。

- 教育理念・学校の使命や人間性育成のための教育指針は学生には年度当初に配布する「学生便覧」に記載し、新入生・在学生に周知している。また、保護者には保護者会にて伝えている。また、各学科とも3つのポリシー（入学受入れ、教育課程、卒業認定）をさだめ、年度初めのオリエンテーション、オープンキャンパス時に説明し、募集要項にも記載し、周知を図っている。
- 保護者アンケートで肯定的意見（よくあてはまる。やや良くあてはまる。）の回答が80%以上ある項目は、「学校は保護者に教育目標、人材育成方針をよく伝えていえる。」「学校は専門業界、企業などと連携し特色ある教育活動を行っている」「学校説明会、パンフレットなどの入学前の情報提供は適切である」「子供は入学後、社会人としてのマナーが身についている」「子供は学校の友人と友好的人間関係を築いている」「子供は学校生活を楽しんでいる」「公共のマナーやルール、校則順守など社会性が身についている」「教職員は学生からの相談、保護者からの相談に適切に応じている」と多く、これはほぼ毎年同じ傾向である。一方、否定的意見（あまり当てはまらない、全く当てはまらない）の回答が20%以上である項目は「学校は家庭との連絡をきめ細かく行っている」（前年比4ポイント減）「子供の進路について、担任と保護者との情報共有ができていない」（前年比2ポイント増）であった。

（3）課題と改善策

- ・ 保護者および関連の業界関係者へは、職業実践専門課程の認定をうけ、ホームページ上情報発信を進めてきている。保護者アンケートでは、学校に対して肯定的意見が多いが、保護者への情報提供とコミュニケーションが課題である。学校の様子を動画配信に力点を置いてきている一方、手紙や電話といったコミュニケーションにも意識を置いてきており、アンケートでは若干の好転があるが、まだまだ工夫の余地はある。保護者および関連の業界関係者の理解が深まるよう情報発信の機会・方法について工夫を加えていきたい。
- ・ 時代に即応した業界の求める人材像について、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を通じて、さらに議論を深めていきたい。
- ・ 各学科の3つのポリシー（入学受入れ、教育課程、卒業認定）を年度末に見直し、分かりやすく整理した。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

ICMは常に国家資格、検定等の高い合格率を出してきて、それを維持する使命がある。しかしながら今年度は国試・主要認定検定試験実績の目標達成に至っていない。教育理念にある『高い専門能力を追求しながらも..』を実現するためにも、目標達成する様に努められたい。専門学校に来るに学生にとって高度資格、国家資格を取って実務に活かすことが目的、この部分は拘って100%を追求するように努力いただきたい。

田村委員)

資格取得は専門学校の存在意義でもある。全員合格に向けてしっかりと指導をしていただきたい。

中野委員)

資格を取ってこそその医療現場就職である。社会貢献のためにも努力されたい。

2. 学校運営

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

(2) 現状

- 運営方針は年度初めにビジョンシートに明記され、職員会時に全教職員に周知される。更に、各部各科で単年度ごとの運営方針を具体的明確にし、職員会で周知・共有している。
- 学校の運営については、学則および諸規定によって明確化されており、有効に機能している。また、教職員による運営組織については組織図、校務分掌を毎年作成することで明確化している。
- 教務・財務等の組織整備など、法人全体の重要事項については、理事会・評議委員会が組織され、定期的な運営状況の報告を行っており、不定期に発生する法人全体に関わる重要

事項についても、理事会・評議委員会を開催して意志決定がなされている。

- 校内においては会議規程に定められた運営部会、運営に関する会議、学科長会議、職員会議を定期的に開催し、必要に応じて重要事項の協議・決定を図っており、組織としての意志決定を効率的に行っている。
- 人事、給与については法人の就業規則並びに諸規定によって規定されている。
- 教育活動等については当校 Web サイト等により情報公開に努めている。
- 情報システムとしては、学籍管理システム、財務会計システム、予算検討システム、学校業務支援システム（学生納付金の管理等）等により効率的に運用されている。
- 学費サポートセンターの創設による業務省力化が図られている。
- 経費精算システムの導入により、教職員の事務作業負担の軽減が図れている。

(3) 課題と改善策

- ・教育活動の外部向け情報発信・機会を従前より増やしている。動画、SNS 等による。
- ・一方で、手紙、電話、面談等旧来かつ基本的なコミュニケーション機会についても重要なコミュニケーションの根本として大切にしていきたい。
- ・同一校舎内に複数の養成施設、学科があり、相互の実習室の利用や他学科の教員による指導が受けられるというチーム協力が図られる良い面がある。ただ、年間の動きが各科スケジュールで違いがあり、連携不足の点もある。教職員相互のコミュニケーションをさらに深める機会をつくっていく。
- ・学校方針、運営方針により、目的・目標を明確にし、教職員に共有、在校生に周知するとともに、入学希望者はじめ学校関係者に広く周知を図っている。
- ・入学希望者へはオープンキャンパスの際に全体説明をしている。
- ・働き方改革の流れを受けながら、ワークライフバランスの推進を図ることを方針の一つに掲げた。学科にもよるが、勤務時間の面では改善は図れてきていると思われる。一方、管理者がその負担を負っている面もあり、根本的な業務の合理化には、まだ、工夫しなければならない課題はある。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

『業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備..』について、新型コロナウイルスへの対応もあり、刻々と変化していく可能性が大きいと思われる。特に「医療安全」「感染予防」に関して強化されていく。人材育成もそれに合わせてより厳しく指導していくことが求められる。管理栄養の世界では国際的な衛生基準も整備されてきている。医療の法律も整備されていく。学校現場にそれに対応すべく情報を収集し、運営していくことが求められる。

コンプライアンスを遵守しつつ速やかに適切な整備を進める事を望む。

田村委員)

病院・医療業界も法令順守が求められる。教職員の働きやすさの点で業務内容や職場環境を整備していく必要がある。医療系学校であるなら尚更である。

仲野委員)

コロナ影響では今まで想像してないような事態が起っている。会議等も今回のように対面ではなくオンラインでの対応が様々なシーンで求められてくる。法律整備だけでなく、技術や効率面でも環境を整えていく必要がある。

3. 教育活動

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修などが行われているか	3

(2) 現状

- 教育課程の編成・実施は教育理念、学校の使命、人間力育成のための教育指針を踏まえた上で、学科長を中心に策定される。明確に定められた学科教育目標に沿って体系的に編成されている。その上で、指定養成施設は各指導要領に則り、教育課程の変更承認申請を行っている。
- 実践的な職業教育として、病院等医療機関および社会福祉施設等または校内の学校附属鍼

灸治療院での職業実践型実習授業を全ての学科で行っている。

- 授業評価については前期・後期の各期に1回、年間2回の学生授業評価アンケートを行っている。結果は担当教員にフィードバックされ授業の改善に反映されている。
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、「学生便覧」に記載され学生に周知されている。各科目担当教員より各期ごとの試験等による評価を行い、病院等による実習の評価にあたっては当該実習先の指導者から実習後に評価をいただく。
- 資格取得についてはカリキュラムの課程認定を進めることで体系的に位置づけ取得しやすい体制を整備している。また、対策授業を取り入れることで学生の資格取得を支援している。
- 教員の資質向上については、研修規定に基づき法人にて行われる各種研修の他、各学科の専門性に応じた外部研修、学会への参加等を奨励している。また、職員の能力開発については法人全体でマネジメントや広報等、各種研修に取り組んでいる。

(3) 課題と改善策

- ・すべての学科が職業実践専門課程の認定を受けている状態になっている。更に業界団体との連携・情報交換を行い、より中身の濃い教育を継続することでよりよい医療人・社会人としての人材育成に努める。
- ・学生のみならず、教員が病院現場に赴き、最新の機器のレクチャーを受けるなど、教育課程編成委員会で提案された実践的教員研修が具体化している。より中身の濃い教員研修ができるようにしていきたい。
- ・教員研修を一つの点で終わらせるのではなく、研修内容を学科はもとより、学校、教務部全体で共有し、学びの場とする機会設定を意識して設ける必要がある。
- ・国家試験、検定試験に関する情報の先取りを意識して積極的に研修に参加する姿勢を望みたい。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

『職員の能力開発のための研修..』について、優位な人材の確保・定着のためにより整備する事を望む。

田村委員)

ICM 学生ということではないが、新卒職員（このコロナ下で入社前に卒業旅行に行ってしまうなど）の医療業界に勤めることへの希薄さがある。日頃の学習・指導の中でのプロ育成、よりよい医療人育成に努めていただきたい。

仲野委員) 特になし

4. 学修成果

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

(2) 現状

- 就職部、就職・進路相談室を配置し、法人の関連部署、実習先病院・施設、卒業生等との連携を図り、求人獲得、就職支援を行っている。
- 資格取得は各学科で最重要課題として取り組んでいる。資格取得実績は学校全体で高いレベルで維持している。
- 健康上の理由や精神的な理由による欠席等、学生の状況については、月例の学科長会議で学科長からの報告により把握、共有される。また、学生の生活上の諸問題等について、必要に応じて個別面談等を実施し、スクールカウンセラー等の活用等退学率の低減に努めている。
- 退学者は学校全体で前年よりも減じた。しかし、モチベーションの低下、学力不足、経済的な理由による退学はある。
- 卒業生については校友会が組織され、校友会総連合会との連携により卒業生の動向を把握している。
- 卒業生から在校生向けに就職活動・学習に関する動機付けの座談会等の機会を設けてきている。

(3) 課題と改善策

- ・実習先病院に就職している卒業生の動向把握は比較的容易であるが、県外への就職をした卒業生の動向把握が難しい。今後はホームページによる情報発信のほかに SNS 等の活用により、より卒業生の情報・動向の把握に努める。校名変更から 15 周年を節目に、卒業生の動向把握の施策を行う目的で、校友会のホームページの改修を行った。広く卒業生に有益な情報提供を行うとともに卒業生からの情報発信も行える場としたい。
- ・基礎学力不足の学生が散見されることから、学校全体での補習、夏季特別勉強会を行った。学科においては、早期から例年になく特別な働きかけを試みながら、最後まで全員を合格に導くようあきらめずに取り組んできた。
- ・目標とする試験に全員合格する高い合格実績を上げた学科がある一方、目標に届かない学科があった。十分な分析と検討を重ね、次年度は全学科全学生の合格を期して計画を練っている。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

看護学科については、実習後の進路変更もあるとの報告、現状では看護師免許の取得による勤務場所として病院・診療所以外にも様々な可能性があること等を教え、退学抑止を推進して頂きたい。

また、『卒業生の把握等..』については、より積極的に情報収集し在校生の指導等に活用して頂きたい。教員とOBのつながりから情報収集、ネットワークを構築していけばよい。

田村委員)

新卒よりも経験を積んだ卒業生のUターン等情報などを提供していただき、実習先病院への優先的斡旋をしていけるとよい。卒業後、学校との関係が希薄になりがちだが、医療現場はUターン就職等が比較的可能な分野、卒業生との繋がりを工夫してほしい。

仲野委員)

卒業生の有効活用を推進されたい。人財派遣会社等を通すのではなく、学校と卒業生間のネットワークから中途就職も活性化させ、グループ全体の優秀な人材確保に貢献いただきたい。

5. 学生支援

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

(2) 現状

- 進路・就職相談について、主に就職・進路相談室が窓口となり、本人の希望や業界とのマッチング等に配慮しつつクラス単位、個別単位に指導を行っている。また、学生の生活上

の諸問題等について、必要に応じて担任により個別面談等を実施している。

- 財団法人日本産業カウンセラー協会による学校訪問対面カウンセリング制度を整備し、学生相談に対する体制を整備している。
- 経済的な支援体制については、特待生制度、法人独自の奨学金制度、納付金の延分納制度等を整備している。また、事務局に担当窓口を設け、教育ローンや奨学金活用の相談を受け付けている。2019 年度入学生からは一人暮らし支援制度を設け、アパート家賃の負担軽減を図る施策を行っている。
- 毎年 6 月に保護者会を開催している。クラス担任による個別面談を実施し、保護者との連携を図っている。
- 卒業生に対しては校友会ホームページを通じて学校情報を提供している。
- 社会人の入学希望者が多い中、専門実践教育訓練給付金講座の指定を臨床工学技士科、看護学科、鍼灸学科（昼）（夜）が受けている。
- 高校生、中学生の職業選択にかかる研究として学習訪問活動を積極的に受け入れている。

（3）課題と改善策

・学校内で学科を超えたサークル活動が活発になってきた。野球、バスケットボール、ダンス等スポーツを中心に活動の幅が広がってきている。

・姉妹校間の交流が活発になってきている。在校生の中にスポーツ活動、地域文化活動に積極的に関わっていく者が多くなっている。今以上に学校内外でコミュニケーションが広がられるように支援をしていく。グループ内で学校を超えたスポーツサークルができた。当校の学生も積極的に参加し、他校の学生との交流を楽しんだ。

・社会人の学び直しの機会のよりよい環境を提供するため、厚生労働省の教育訓練給付金指定を受けている学科が 4 学科ある。この制度を利用する入学希望者も多いため、更に周知を進めたい。

（4）学校関係者評価委員会による評価

野水委員長）

『学生の生活環境への支援..』については、新型コロナウイルスの影響により環境が激変する学生もあるかと思われるので、迅速に対応して頂きたい。『卒業生への支援体制』については、是非強化して頂きたい。

田村委員）

経済的に厳しい学生が増えてくることが予測される。奨学金制度を活用し、学びを継続できる体制を整えていただきたい。

仲野委員）

ハローワークも人で溢れている。学びの環境を整えていただきたい。

6. 教育環境

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

(2) 現状

- 指定養成施設が多いことから、校舎内施設設備、必要備品類にあつては法令の基準に則り整備されている。
- 法人が所有する研修施設において、各種オリエンテーション、就職研修を宿泊研修として実施しているほか、学校全体での講演会も実施している。
- 学内外の実習施設はどの学科も豊富に用意されている。海外研修は一部の学科で海外提携校を持ち、教育交流が図られているが、他学科では研修旅行の実施参加レベルに留まる。
- 春・秋定期に学校全体での防災訓練を実施している。震災想定・火災想定それぞれに校舎から外部集合場所への避難完了時間を測定し経年比較をしている。

(3) 課題と改善策

- ・既存の海外提携校との交流を大切にしながら、更に海外提携校（特に英語圏）との交流を模索し、国際化の推進を図るべく、海外専門学校との教育交流をオファーしている。2021年度を目標に提携したい。
- ・校内での留学生交流会への参加者が増えてきている。年1回から年2回の開催に増しての活動が定着してきていたが、昨年度に引き続き好評で参加者が増した。
- ・海外研修旅行はシンガポール、グアム、台湾の3コースで実施でき、活気づいている。中国、天津の姉妹校訪問は今年度は対象の参加者が少人数のため次年度へ見送りとした。自身の視野を広げる良い機会でもあり、その意義をよく理解してもらえるよう情報を提供していきたい。海外研修実施にあたっては、国際情勢を踏まえ、安全を最優先に情報収集を行い、実施コースを検討しているが、新型コロナウイルスの感染防止のため、学生の安全を最優先に実施の有無は判断する。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

『防災に対する体制の整備..』について、多くの学生は就労後、有事の際には被災患者を迎える立場になると思われるので、難しいとは思いますが、例えば【トリアージ】に関するレクチャー等を取り入れる等職業人となった時の心構えを伝えられる様検討されたい。

リアリティのある防災体制、“医療人側”視点での訓練が学生のうちに必要と思われる。

田村委員)

コロナ関係で外部実習の受け入れが難しい状況下で、現場に近い実習を学内において行える環境を整備する必要があり、注目もされてくるのではないか。

仲野委員) 特になし

7. 学生の受入れ募集

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学生募集活動は適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

(2) 現状

- 学生募集については、パンフレット、学生募集要項を毎年作成し、入学希望者に配布している。また、ほぼ月1回の頻度でオープンキャンパスを開催し、オープンキャンパスでは授業体験を実施する等、当校に対する理解を深めてもらっている。その他、県内県外の高校訪問等による学生募集活動も実施している。
- 資格取得実績、就職実績等について数値データを示し、理解を図れるよう説明している。
- 卒業生の進路状況や各種資格検定取得状況等の教育成果は、パンフレットや Web サイトへの掲載によって公開されている。

(3) 課題と改善策

- ・大学との併願で当校を志望する方も増えている。高いレベルの資格取得実績、専門職への就職実績はじめ、人間性育成教育、学校生活の様子など細かい情報提供を行うことで、本人の将来進路にとって、よりよい選択が適うようにしていきたい。
- ・社会人の学び直しのニーズに応えるよう社会人の入学が多い4つの学科で厚生労働省の専門実践教育訓練給付金講座の指定を受けている。問い合わせ、オープンキャンパスの参加社会人が増えている。
- ・学納金は同系統の私立大学に比して、負担の少ない水準であり、各種奨学金制度も設けている。このことを周知していく。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

評価3項目とも適切との評価。しかしながら、定員に満たない学科がある。18歳人口の減少等厳しい環境かと思うが募集は経営の根幹となるので目標達成に努められたい。

田村委員)

看護学校の募集状況が厳しいようだ。4年制大学で募集が振るわなかったところもあると聞いている。不景気になると人気が出るのが医療業界（介護も）であるため、広報・告知に努めてほしい。また、学生募集も大事であるが、「質」の確保も必要であろう。

仲野委員)

資格を取らせることは最低ラインである。そのことが募集にも影響する。

8. 財務

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

(2) 現状

- 法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。

(3) 課題と改善策

現状で直ちに改善しなければならない大きな課題はないが、18歳人口の減少や高校新卒者の就職率など外部要因の変動による収支への影響に耐え得る財務基盤の構築を行っていきたい。

特記事項

学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

評価 4 項目とも適切との評価。経営環境が厳しくなるであろう中、継続できる様努められたい。学生募集が財務の根幹であるため、教育理念を全うし、確実に学生を集める（減らさない）ことに取り組んでいただきたい。

田村委員) 特になし

仲野委員) 特になし

9. 法令等の遵守

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

(2) 現状

- 法令、設置基準の遵守について、専門学校担当課との対応は法人本部で窓口となり一括して行っている。また、指定養成施設である学科については学校責任者が窓口となり厚生局、県担当課へ定期的に自己点検の報告を行い、変更事項については適切に承認申請および申請届出の手続きが行われている。
- 個人情報の保護に関する規則は明文化されており、学生便覧に記載され学生へも周知されている。
- 教職員へのアンケート等も踏まえた自己評価を実施し、問題点については順次改善に取り組んでいる。平成 25 年度からは学校関係者評価委員会も設置し、自己評価の妥当性、透明性の向上を図っている。

(3) 課題と改善策

- ・ 2017 年 9 月に臨床工学技士科、鍼灸学科に新潟県医務薬事課により養成施設の運営に対する指導調査があったが、特に改善すべき点はないと運営状況良好の評価をもらった。
- ・ 自己評価については、学校関係者評価委員会の評価を経て、当校の Web サイトに掲載して公開している。
- ・ 学内の学生の声を広く聞くべく、「ご意見箱」を設置している。月に 2～3 件の意見、要望、質問がある。全体に共有した方がよいと思われる意見、要望、質問については、学校長が回答し、校内の掲示板にて周知を図っている。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

『法令、専門学校設置基準等の遵守..』について、教員の確保等含め今後とも適切に対応される事を望む。

田村委員)

職員の勤退管理も法律的に厳しくなっている。

時間外勤務や休暇管理などをしっかり行い、教員の福祉の増進に努めていただきたい。

仲野委員) 他委員と同意見

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4

(2) 現状

- 地域おこしのイベント行事への参加を行っている。
- 近隣地域への清掃活動、募金活動を定期的に行っている。地域のスポーツイベントに鍼灸無料体験治療等での参加をしている。
- 過去に厚生労働省の基金訓練、文部科学省の委託訓練による学科開設実績があるが、近年開講実績はなかった。

(3) 課題と改善策

- ・公開講座については具体的な検討を進めている。校内で行われているチーム医療講演会を地域の方々や高校へも聴講できるよう案内をした。12月の講演会には入学予定の高校生が数名参加した。
- ・新潟テクノスクールの委託事業に当校の内部学生の教育に支障の無い範囲内で医療事務学科の教育リソースを活用してもらうよう時期を限定して応募している。2017年9月から12月で「医療事務科」を開講。受講生は12名。2018年同様に実施、12名受講。2019年度は同講座は15名の受講があった。終了アンケートでは満足度の高い講座であったことが伺える。次年度の同講座の採択が決まっている。

(4) 学校関係者評価委員会による評価

野水委員長)

評価4項目とも適切との評価。地域との交流など、今後も積極的に推進される事を望む。

田村委員)

マスメディアに取り上げられるような地域交流の取り組みも検討してほしい。

仲野委員)

社会貢献活動の継続性が難しいところがある。

通常校務もあると思うが、できるところからできる範囲で取り組んでいけばよい